

審査員特別賞

夢は世界でまちづくり

栃木県立宇都宮工業高等学校 2年

船山 真里

私には、世界を飛び回るグローバルな土木設計士になり、自分が設計したまちをつくるという大きな目標があります。

2011年の東日本大震災で、当時小学校5年生であった私は、濁流に流されていくたくさんの人々、多くの家屋の倒壊、道路の崩壊などの映像を報道で見るたびに、胸が痛みました。私は栃木県に住んでいますが、私の家の付近でも、屋根瓦が落ちたり、塀が倒れたりするなどの被害を受けました。ブルーシートで覆われた屋根の家をあちこちに見ながらの不安な登下校が、余震が続く中、しばらく続きました。同じような建物でも、損壊の程度に差があり、隣どうしの家でも被害の程度が明らかに違うのが、とても不思議でした。

この経験から、新しい技術を駆使し、災害に強いまちづくりに貢献できる土木設計士を将来の夢にしました。

国際協力のために日本企業等が海外に増々進出する一方で、国が労働力として外国人の受け入れを打ち出した今日、日本の土木技術を海外の土木技師に伝えたり、逆に、日本で彼らに説明する機会が増えたりしていくと予想されます。その時に、英語はその一つのツールとして用いられます。英語やコミュニケーション力の有無で仕事の質に大きな差が出ると思います。

英語を学ぼうと、中3の秋に、カナダのバンクーバーで3週間ホームステイしましたが、英語でコミュニケーションすることの楽しさと同時に、難しさと大切さも学びました。その経験を活かし、高1の夏のある日、留学しよう決め、何度も受験するなど準備をし、いよいよこの夏、イギリスに留学します。

今回の留学では、歴史と伝統のあるイギリスで、伝統的な建造物や最新の工法による橋などを、機会を作って見てみたいです。どう土木遺産を守っているかも興味があります。ホストファミリーや友達、地域の人たちと積極的に交流し、建造物や文化に対する考え方、そして、多種多様な人々の暮らしの中で、寛容的な態度なども学んできたいと思います。

現在、私は工業高校の土木設計コースで土木工学などについて学んでいます。大学進学後

は、より専門的に土木工学を学び、最先端技術を身につけ、将来世界をフィールドに女性技師の視点で、住宅環境や生活環境を整えたり改善したりできる技術者になります。

東日本大震災の後も、昨年、関東・東北地方を襲った水害、この夏、イタリア中部を襲った地震など、世界では、地震、異常気象や台風による河川の氾濫、竜巻、集中豪雨、地滑り、噴火、山火事などが毎日のように起きていて、そういったニュースを見ない日はないくらいです。私たちがテレビを見たり、スポーツを楽しんだり、友達とゲームをしたりしている今日この瞬間にも、日本では、そして世界でも、多くの大切な命と財産が失われているのです。日本の技術や災害の経験を活かして、これらの悲劇を少しでも減らすことはできるものと考えます。

鬼怒川の決壊、御嶽山の噴火、突然の地震、それ自体を防ぐことができませんでしたし、今後も防ぐことは極めて厳しいと思われます。それでも今日も人は生きて、活動していきます。住みやすいまち、災害に強いまち、少しでも災害を減らせるまち、安心・安全なまち、こういったまちづくりは、未来の地球のために、そして、この瞬間にも必要です。持続可能なまちづくりは、世界共通の課題で、一人一人が考えるべき問題です。私にできることは何かと考えたとき、土木設計士になることだと言うことができます。

日本では、大きな災害があるたびに、世界からの協力により、また立ち上がろうとすることができています。世界では、家や親を失った子供たちが日本の国際貢献を待っています。未来の地球にできることは、ひとりひとり違いますが、ひとりひとりが何ができるかを考え行動することが大切なのだと思います。